

# 今年の小学生新聞グランプリ「学校賞」に輝き、今年も新聞づくりの準備

## 札幌市立 屯田北小学校を訪問取材



北海道新聞社が17年前から実施してきた「小学生新聞グランプリ」は、子どもたちの社会・自然などへの関心を高め、考える力や表現する力を養う目標を持っています。今年も全道で同グランプリへの応募作品づくりが始まっています。

そこで今回は、昨年「学校賞」に輝いた札幌市立屯田北小学校を訪問。担当の先生と子どもたちを取材しました。

（長）

### 受賞が良い刺激になって

屯田北小学校（大江則夫校長、児童数632人）は、開校7年目を迎えた新興住宅街の中にある小学校です。

昨年の同グランプリへの応募点数は217点（応募学校数は857校）で、一校の応募点数としては全道3番目です。

昨年は「学校賞」のほかに2年生の小坂恭平くんが「アイデア賞」を、4年生の浜形美咲さん、5年生の岩本汰汰くん、小坂成美さんが「入選」を受賞しました。小坂さんは姉弟受賞です。

今年は人事異動があり、担当の先生たちが交代しましたが、教務主任

の小柳俊夫教諭は「テーマ選び、レイアウト、読み手にわかりやすい文章など、積極的に取り組んできた指導を今後とも継続していきたいと考えています」と話します。佐藤正治教頭も「昨年の子どもたちと学校

### 興味を引き出す、新聞を読む習慣

同クラスでは毎日、新聞に出ていた記事の中で子どもたちが興味を持ったものを、プロジェクトターに映し出し、発表します。発表する際には朝倉教諭が常に「どうして」「なぜ」といった、考えさせる質問をすることを忘れません。子どもたちは記事の発表とともに、自分の意見をはっきりと言うことが習慣になってきています。

この日、まず最近の新聞記事から、子どもたちが関心を抱いたものを次々と発表してもらいました。

9・11テロの主犯とされた人物が殺害された記事、焼肉店での食中毒死事件の記事、札幌ドームなどでの節電の記事、松前で桜が開花した記事、福島第一原発の1号建屋に送風機が設置されたという記事、北大で北海道式古墳が発見されたという記事、遺体鑑定時のDNA鑑定精度が上がったという記事、道東の

としての受賞は、皆の励みになっていきます。良い刺激になり、新聞づくりの意欲も高まっています」と話します。

現在、新聞づくりの準備を進めている6年3組（担任・朝倉一民教諭、30人）のクラスの授業を取材しました。

サンマ漁が原発などの影響でどうなるのかといった、実に広い範囲の記事があげられました。

朝倉教諭はそれらに関連する記事についても発表させ、これまでに子どもたちが学習した歴史などの知識についても加えていきます。朝倉教諭の質問は、子どもたちの知性と感性をくすぶる続けます。

実は新聞づくりでの最初の難問は「テーマ」を定めることです。テーマ



この日の授業では、子どもたちの取り上げた記事と、それに関連したいろいろな情報がたくさん集まりました。

朝倉教諭は黒板に「Find: 屯田のまち」と書きました。今度の新聞は自分たちの住むまちについて、調べてみよう、とテーマを投げかけたのです。

「次回までに、屯田のまちのことをいろいろ調べてみてください。店の歴史であったり、他にも店があったりするのかわかなど調べてみよう」と授業を締めくくりました。

### 受賞をきっかけに子どもにも変化が

グランプリ連続受賞の姉弟、母親の小坂美絵さんの話

姉の成美は2年の時に入選をいただきましたが、それまでは何につけても受け身なところがありました。3年で大賞を受けて、自信がつき、何て1年の時にTVH賞をにでも積極的にになりました。もともと読書やマンガは好きでしたが、ゴミ問題など社会的なことについて、いろいろ調べ情報を整理するのも上手になりました。

弟の恭平は、姉の影響も少しは受けているのですが、自然や生き物を観察するのが好きです。それらをテーマにして1年の時にTVH賞をいただき、2年でアイデア賞でした。姉と同様に自信をつけたと思います。新聞グランプリを通して、努力すれば褒められることを2人とも知ったと思っています。